

【22_246技術系メルマガ】『損切・建値撤退』は『根拠の崩壊』で考える

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

よく貰う質問のひとつとして「建値移動のタイミング」についても、僕のもとによく寄せられます。

エントリーする以上は利確するつもりでトレードしているわけですから

建値で損失は防いでも、結局その後目線方向にプライスが伸びていくのをただ見守るだけ

というのは面白くない、という考えも非常に(!)理解できます。

それだけに『建値移動』をするからには、そこにも自分なりの『納得』を、損切りの時と同様に持っておきたいものです。

そこで今回は、どうやって『納得の出来る建値移動』をしていけばよいのか

僕の考え方をベースに解説したいと思います。

□
└─ ■ 基本的な考え方は、『損切り』するときと同じ
└──────────────────┘

「いや、自分は建値移動はしないんで！」という方には、今日のお話はちょっと退屈してしまうかもしれませんが

損切りの考え方とリンクするところも多いので、良ければ最後までお付き合いくださいね。

これまでも何度かメルマガでは出てきているものになりますが

僕がやっている『MA収縮+3波』のエントリーでは、基本的なエントリー、利確・損切りのイメージは

以下の図の通りです。

▼MA収縮+3波 ベースのエントリーまでのセットアップ▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/guidance_000.png

図の通りのイメージを狙うのが基本戦術ですが

なるべくストップ幅を縮めて、大きくロットを張りたい という

(僕のような 笑)人は、M1足の短期足パターンに分解して、ネックラインからエントリーする

といった工夫を加えることもできます。

実際のエントリーツイートを見て貰うと、時々M1足でのパターン分解に言及するツイートもしているの

興味がある人はよくチェックしてみてください(笑)

話を戻して、、、 ロスカットを決める基準となるのは、僕の手法に沿って考えれば

原則として『認識した1波が否定された場合』です。

このように、ロスカットの設定とは『(ポジションに対して)越えてはいけない一線』を決めておくこと

ですから、建値に関しても同様に『今、含み益の状態だけど・・・ここまで戻ってこられたらちょっと流れおかしいよね』と

判断できる条件が整った段階で設定すればよいのです。

丁度、最近やったトレードでその事例が説明しやすい事例があったのでご紹介します。

▼8/31 AUDUSD ショートエントリー(建値)▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1564936595123617793?s=20&t=QGOCzJkZ8ik6VG-bMLNaPw>

今回の事例では、5pips位の順行で含み益になってから、エントリーラインの直上で

揉み合いのBOXを作り始めていました。

この時点で、僕は『ボックスを下抜けた場合は、上げる力が弱いのだろう』という認識の下で
ストップを建値よりちょっと上に設定して、このポジションは放置(笑)を決め込みました。

結果として、建値に返されてトレードは終わりましたが

このように『(自分の中での)越えたらいけない一線』を基準として最初のロスカットを決めるのと
同じような考え方で

建値についても考えてみると、迷いが少なくなっていくのではないのでしょうか。

フォワードテストをしながら、色々考えてみてください。